

夏期宿泊研修「御座山^{おぐらやま}の自然」

佐久穂小学校 酒井 啓喜

1. はじめに

佐久理科同好会では地域研究調査と会員相互の交流研修を兼ねて夏期宿泊研修会を行っている。3回目となる今年は北相木村の「御座山」の調査を実施した。その後は山麓の「長者の森キャンプ場」で宿泊研修を行った。佐久理科同好会では、以前は夏休みに実践研究発表会と実験実習講習会を行っていたのだが、信州大学 CST 講習会が実施されるようになり、残念ながら途絶えてしまっている。そんな中、こうして同好の志で集まり、共に山を歩き、ゆっくりと語り合える場はなかなかない。このような機会をいただき大変ありがたく思う。

本年度の御座山の調査コースは次の通りである。

長者の森コース登山口(08:20)・・・白岩コース合流点(10:00)・・・見晴台(10:30)・・・前衛ピーク(11:10)・・・御座山(11:45～12:45)・・・長者の森コース登山口(15:20)

今回の御座山の調査は諸々の都合で中山先生、平林先生、酒井の3名で行った。台風5号の接近に伴い、日本各地で警報や注意報が発令されている中での日程だったためか、他の登山客に会うことは全くなかった。山頂までは好天に恵まれたが、下山途中から台風のため雨に降られながらの下山となった。

2. 調査結果

① 長者の森コース登山口～白岩コース合流点

長者の森からの登りは丸太で整備されており、大変歩きやすい道だった。入口付近は、四方に大きな花を咲かせたオオウバユリや、可憐な淡い色の花を咲かせるキバナノヤマオダマキなど、多種多様な植生が楽しめる。歩きながら植物の名前の由来などの話を教えてもらえるのが楽しい。チダケサシは茎が丈夫で乳茸(チチタケ)というキノコをとった際に、これに刺して持ち帰ったためこの名がついたそうだ。

斜面がきつくなる辺りからホタルブクロが腰の高さまで生い茂っていた。露で足元が濡れる中、藪をこいでいくと、レンゲショウマが可憐な花を咲かせていた。思わぬ発見に皆夢中になって写真を撮ったりスケッチをしたりした。

この山を歩いて楽しい所は、進んでいくと植生が次々に変化していく点である。藪を過ぎると一転してバイケイソウとトリカブトを中心とした植生に様相が変わった。悲しいこと

に見慣れたシカの食害の痕である。さらに進んでいくと、アズマシャクナゲの群落になる。6月頃に登ったら、ここは一面のシャクナゲで得も言われぬ景色なのだろうと想像しながら歩くと、上り坂の辛さも少し和らぐように思える。

ほかに確認できた動植物は次の通り。

(植物) ギボウシ、ウツボグサ、オカトラノオ、ヤマトウバ、フシグロセンノウ、ハルニレ、ヨツバヒヨドリ、キオン、ノリウツギ、カワミドリ、クガイソウ、マルバダケブキ、ヌスビトハギ、キツネノボタン、トチノキ、オトコエシ、ミズキ、シモツケ、キンミズヒキ、サワラ、アレチマツヨイグサ、イケマ、ヤマウルシ、カラマツソウ、サラシナショウマ、ヤブジラミ、エビガライチゴ、オニグルミ、アカソ、カイトラカコウ、レンゲショウマ、エンレイソウ、ウド、ニワトコ、ヤブレガサ、ルイヨウボタン、ミズナラ、ミツバツツジ、リョウブ、オオカメノキ、ナツツバキ、ソバナ、ヤグルマソウ、イタドリ、サワギク、サラシナショウマ、ヤマアジサイ、ハエドクソウ、タカネママコナ、ホツツジ、シナノキ、サワシバ
(野鳥) ヒヨドリ、コガラ、カケス、ホオジロ、ウグイス、シジュウカラ、オオルリ、ゴジュウカラ、メボソムシクイなど。

② 白岩コース合流点～見晴台～前衛ピーク～御座山頂

尾根筋にあたると再び植生が変わった。ミズナラやシラカバを中心とし落葉樹林に遷移した。コヨウラクツツジ、ミヤマハンノキ、サワシバ、アオダモ等に加えて各種カエデ類が見られる。コハウチワカエデは葉柄が葉の3分の2超の長さ、対してハウチワカエデの葉柄は短いのが見分けるコツだそうだ。

ここまでは台風5号の影響か、南から湿った風が吹き込む中を歩いてきたのだが、尾根に出ると一転してさわやかな風が吹いてきた。日差しも出てきて、緩やかな登りを快適に歩くことができた。

岩場の上で一休憩。台風情報をチェックして愕然とする。もうすぐ長野県は完全に台風に含まれる。歩みを急いだ。

10:30に見晴台に到着。標高1750m、前衛ピークまであと40分。まだまだ先は長い。

コメツガやゴヨウマツなどの針葉樹の足元に苔むした柔らかな山道が続く。そんな中にひっそりと佇むラン(特に今回の調査の目的の一つヒメミヤマウズラ)を探しながら進む。白く輝くギンリョウソウが足元を楽しませる。もろい玄武岩質の岩塊を登った所にヒメミヤマウズラが現れる。10cm程度の茎。数枚の葉には網目状の模様。言われてみれば確かにウズラの羽の模様のようなものである。目を凝らして探していないと見過ごしてしまうだろう。しかし、こうして一生懸命に探して見つかり、本当に素晴らしい宝物に見えてくるから不思議なものだ。もしかすると何事もそのようなものなのかもしれないなどと考えながら足を進める。

11：10、前衛ピーク（1992m）に到達。山頂まであと35分。もう一息である。コメツガやダケカンバの林の中にマルバダケブキがオレンジ色の花を咲かせている。シラカバの林を登りきると、何やら大きなツヤツヤした葉に千鳥が舞っているような姿が目に見え飛び込んできた。中山先生と平林先生に確認してみると「キシチドリです。良かったですね。」と。ポピュラーなランなのだそうだが、私にとっては大発見である。繊細な花のつくりと大きなツヤのある葉が実に素敵だ。続けてコイチヨウランも発見し、ますますランの魅力に魅せられた私であった。

11：45、避難小屋を過ぎて、石英片岩の岩塊の間を抜けると、南側の展望が目の前に開けた。山頂は断崖絶壁のように切り立っており、下をのぞき込むと思わず足が竦んでしまう。足元だけを見つめながらようやく山頂に到着した。腰を下ろすとやっと眺望を楽しむことができた。南相木の男山（1851m）・天狗山（1882m）を眼下に見下ろすことができる。無数の赤トンボが飛び交う中、昼食をとった。イワシャジンのような花、イワインチンの黄色の花、イワカガミの綺麗な葉を眺めながら、平林先生に淹れていただいたコーヒーの味は格別だった。見事な晴れ間も、西稜方向から迫る雲に覆い隠されていった。そろそろ帰ろうかという頃にホシガラスが現れ、目の前の樹上に止まった。美しい縞模様の思わぬ珍客に見送られながら、山頂を後にした。

（植物）モミ、ヤマモミジ、トモエソウ（毒）、ヤエガワカンバ、枯れたササ、ウド、ヤマシャクヤク、フシグロセンノウ、センジュガンピ、マイヅルソウ、ホウキタキ、アズマシヤクナゲ、ハクサンシヤクナゲ、ナナカマド、タカネママコナ、カニコウモリ、ミヤマモジズリ、イワカガミ、コメススキ、ホツツジ、ウスユキソウ、コメツツジ、オオシラビソ、ナナカマド、サルオガセ

（野鳥）ルリビタキ、メボソムシクイ、ウソ、キバシリ、クロジ、ホシガラス、アマツバメ

12：45、下山開始。14時過ぎに本格的に雨が降ってきて、傘やカッパを使わざるを得なくなってきた。行きの調査結果を確認しながらの下山であったが、かなり雨が強くなってきたので、帰りを急ぎ、15：20下山となった。

3. 宿泊研修

長者の森キャンプ場は大変良く整備されており、見ただけでもワクワクが止まらない。森の中に流れる清流。せせらぎとともに聞こえてくる野鳥の声。きれいに刈り込まれた草地。大きなバンガロー。どのくらいあるのか想像もつかない長大な滑り台。お子様たちが楽しめる遊具。公共のトイレに食堂。建物に食材を持ち込み、ガスコンロでバーベキューもできる。自動販売機もあり、飲み物の調達にも困らない。場内に点在する大理石の彫刻。オートキャンプ場もあれば、大きな広場もある。まさに至れり尽くせりなのだ。

池田T、関口T、白倉Tが合流し、食堂に移動した。食堂には、その他の団体（高校生）も食事をしており、焼き肉を食べていた。その一角のテーブルを使って、こちらも夕食であ

る。それぞれの夏休み中の研修などの情報交換や昔話に花を咲かせながら、楽しいひと時を過ごした。室内のテレビに時折映し出される天気予報には、長野県内軒並み大雨警報というとんでもない状態であった。今晚2時に月食の観察を行うという予定であったが、かなり難しそうである。

夕食後、バンガローに戻り、それぞれの実践の話題についてフリートーキングとなった。

1学期の実践の中で、3年生のモンシロチョウの羽化についての実践について、それぞれの取り組みや、効果的だった飼育方法などについて話題になった。

水槽を2つ重ね合わせて、その中で教師の方で毎日観察を続け、羽化直前に「今日見てください。」と言って渡す。音楽や専科・移動教室の際にも一緒に持って行ってもらう方法。4月中旬にプランターにミズナの種をまき、寒冷紗をかけておく。モンシロチョウをその中に入れ、確実にモンシロチョウだけの卵を取る。という方法など、様々な実践について語られた。

また、メダカやグッピーなどの効果的な飼育方法や教室環境の工夫、理科園の位置、テスト問題の是非や効果的な取り組み等について、夜を徹して語り合った。それぞれの立場で同じ内容を教えている同志である。同じような悩みがあり、それにどのようにして対応をしているのか、情報を交換し合うことができたことは、本当に得難い時間となった。

4. おわりに

この研修を通して、多くの先生方と交流を深め、ひざを突き合わせて腹を割って話し合えた、そんな機会が持てたことを心より感謝したい。佐久理科同好会では、今後も夏期宿泊研修会を行いたいと考えている。理科の専門の先生だけでなく、自然に親しみたい、暑い夏を涼しい山で乗り切りたい、そんなきっかけから、仲間の裾野が広がっていくことを願ってやまない。ぜひとも、多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。